りゅうでん News

第55期　第2号

発行日　2月25日

ホームページ改訂しました

松田社長

20年前には、インターネットの世界がここまで来るとはとても考えられなかった。携帯電話の普及も想定外の速さだった。ましてやスマホにいたっては、考え得る限界範囲を超えていた。

電子メールについては、構内LAN(ローカルエリアネットワーク:社内ネットワークなど)や、広域ではPC-VANやNIFTY-ServeなどのBBSに加入して会員間でしか一般人は使うすべはなかった。そんな時代が80年代から20年近く続いたわけだった。

私の前職中は、インターネットの黎明期に当たったが、92年辺りからインターネットメールを使い始めた。名刺にメールアドレスを記載するのが先進的なビジネスマンの証だった時代である。

同時に会社のホームページを立ち上げ、さらにアメリカ在住の友人経由でニューヨークの画廊の委託を受け、ジェームス・リジィという画家の作品を日本で売るためのページも立ち上げた。売れたという話しは聞いていない。

まだ、ネットで商品を販売するというビジネスも立ち上がっていなかったが、先進的な企業は取り組みを始めていた。私は、大丸百貨店からお歳暮販売のネット化を打診され、マイクロソフトのOB社員と組んで提案をしたが、時期尚早ということで実現しなかった。まだ、楽天の影も形もなかった頃だ。

通信環境も悪くて、もっぱら電話回線にモデムを繋いでいちいちダイヤルアップで接続する面倒くささだった。電話代は嵩むし、通信速度もわずか300bps-1,200bps（bits/secondのこと）で、現在の1Gbps(10億bps)なんて速さに比べれば違いは明らかだ。

そんな経験もあったのだが、ずいぶんその後はネットの分野から遠ざかってしまった。当社のホームページは行き掛かり上で私が作ったが、ずいぶんいい加減な作り方だった。作るのに使用したソフトはAdobe社のDreamweaverというソフトだが、機能やホームページを記述するための言語（HTML)、書式を記述する仕組み(CSS)をキチンと理解することもなく進めてしまった。

最初のバージョンからほとんど変更することなく、その都度いくらなんでも古いでしょという事項は更新していったが、面倒くさくてほったらかし状態が続いた。さすがにこれではまずいぞという気持ちが臨界点に達し、思い切った書き換えを決意した次第だ。

社長がそんなことをしていて良いのか！と言われるとその通りでごぜーますと言わざるを得ない σ(^_^;)　。当初は、記載したい事項を整理して、デザインや構成は専門業者に任せる方がベターだと考えていたが、実際に構成を考え始めると、これを載せよう、こんな写真もある、と迷いは尽きない。整理して業者に引き継ぐことが煩雑だし、どんどん内容が変わっていくので、これは自分達で作らざるを得ないなと思うようになった。

社内でチームを組んで実行すれば私がやらなくても可能だったが、なかなか自分の日常業務以外に勉強して取り組める社員もいないし、真面目に勉強してみるかと思い立ったのが運の尽きで泥沼にハマった。

とにかく、今まで経験してきたプログラミング言語とはかなり違って、理論と現象の食い違いが理解できない部分も出てきた。

当初は、ホームページビルダーという売れ筋のソフトで、自動的にホームページを生成するソフトを使ってみたが、細かい修正が思うとおりにできない。こりゃ、こつこつ作り込むしかないなと方針転換したことも時間が掛かった原因だ。

そんなこんなで空いた時間を使って数ヶ月もかかって、取りあえず必要な50以上のページ作ってをアップした。

一般的に良く目にする”copyright　××”やら、”プライバシーポリシー”といったお決まりの内容を必要もないのに記載するのがイヤだったし、会社の“顔が見える”情報発信をしたいと考え、ありきたりの内容から脱却する方針で内容を詰めた。同業他社のつまらないホームページを見るとねぇ・・・。

途中で使用ソフトと方針を変えたため、まだコードの内容がスッキリしていないので、スマートにしていくことと、スマホ対応がいい加減なので修正することが課題だ。

内容については、本業の電気工事関連の記載事項が少ないのが悩みである。まあ、工事・施工に関して一般の興味を惹くような事柄が思い当たらないこともあるが、そんな中でもこれはというモノがあれば知らせて欲しい。こんな作業をしているのか、とかそんな道具を使っているのかと興味を惹きそうな情報があれば専門理解は別にしても面白いこともあるのではないか。

社員紹介なんてページもいいと思うぞ。特技や趣味紹介やお嫁さん募集なんていうのもやってみようか。自身の掲載不可という社員は申し出て下さい。

※　※　※

――――――以下、省略――――――